

令和 4 年 2 月 28 日

教 育 長 様

研究コース	
グループ研究B	
校園コード（代表者校園の市費コード）	
651423	
選定番号	222

代表者 校園名： 大阪市立新庄小学校
 校園長名： 的場 弥生
 電話： 6328-0164
 事務職員名： 林 希穂
 申請者 校園名： 大阪市立山之内小学校
 職名・名前： 主務教諭 畑 大介
 電話： 6693-0001

令和3年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和3年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	グループ研究B	研究年数	新規研究（1年目）
2	研究テーマ	互いの人権を尊重し、地球上の人々と共に生きる子どもを育てる ～解のない時代を見すえた“Emotional”な力の育成をめざして フェーズ2.0			
3	研究目的	<ul style="list-style-type: none"> ○人権尊重を基盤として S D G s の視点に立ち、持続可能な社会の創造に向けて、異なる文化を持つ他者と共に行動するための「主体的・対話的で深い学び」のあり方を探る。 ○文化の多様性に気づき、それぞれの「ちがい」を認め合える力を育てる。 また、外国語を使ったコミュニケーションを通して、他者との豊かな関わりを構築する力を育む。（多文化共生・ことばとコミュニケーション） ○世界で起きていることに敏感に関心をもち、自分とのつながりを感じる力を育てる（地球的課題） ○2030年の社会を生きていくために必要な力を「“Emotional”な力」と定義し、E S D で目指すべき視点に立ち返り、その力を獲得するための手立てについて仮説を立て、研究授業を通して検証する。 			
4	取り組んだ研究内容	<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。 (MSコソック 9.5ポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国際理解教育において「主体的・対話的で深い学び」が成立するために必要な授業の題材や構成、有効な資料活用法、学習形態等について、研究授業、①公開授業：多文化共生・ことばとコミュニケーション部会「I love あいさつ」（1年生）、②公開授業：地球の未来部会「地球の水問題、わたしたちのせいじゃない?」（4年生）③部内公開：地球の未来部会「生き物たちがプラスチックごみを…」を行った。 ○全市小学校教員向けのS D G s の視点に立った国際理解教育について、また、E S D で目指すべき視点に立ち返り、地球的規模で考え方様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組み、持続可能な社会の担い手となるよう、その意識と行動を変革できる人材の育成に向けて、研修会を計画していたが、コロナ禍のため実施できなかった。 ○全市ですぐに活用可能な指導案を作成するべく、短時間で楽しく取り組める国際理解教育の指導案のリーフレットを作成した。また、新庄小学校では、国語科「書く活動」に軸足を置いて、単元の発展として国際理解教育を位置付けた授業実践を行い1~6学年までの指導案を作成した。 ○公開授業研究会や全体研修会などの参加者に対してアンケートを実施し、結果を分析し、今後の研究活動に生かすことを予定していたが、コロナ禍のためできなかった。 ○新學習指導要領の評価の3観点に合わせて、国際理解教育の學習目標一覧および指導案の形式について有用性について検証を進めた。また、アセスメントシートとルーブリックの活用を進めその有用性の検証も行ったが、検証数がまだ少ない。 ○国際理解教育におけるI C T機器の効果的な活用については、運営委員会や全体会での活用にとどまった。 ○日本国際理解研究学会に直接参加し、E S D やS D G s について発表を行い、最新の情報を収集できた。（本予算は活用できなかった） ○研究を深めるための外部講師を招いての年間2回の研修会を実施できた。（予算は必要なかつた） ○「“Emotional”な力」についての理論研究を進め、定義づけを行い、その力を獲得するための學習内容や學習活動法などについて、クリティカルシンキング、共感性、多様な価値等のキーワードをもとに仮説を立て、授業研究を通して検証を進めている。 ○国際理解教育の実践を通して、教員のどのような指導力の向上を図ることができるのか実証的な検証を③部内公開：地球の未来部会「生き物たちがプラスチックごみを…」を通し行つた。 			

		研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。											
5	研究発表等の日程・場所・参加者数	日程	令和 3 年 10 月 26 日	参加者数	約 10 名								
		場所	大阪市立茨田西小学校										
		備考	公開授業：文化の多様性・ことばとコミュニケーション部会「I love あいさつ」(1年生)、他に、地球の未来部会「地球の水問題、わたしたちのせいじゃない?」(4年生)（令和3年11月22日 参加者12人 大阪市立磯路小学校）										
		大阪市教育振興基本計画に示されている、子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上および教員の資質や指導力の向上について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。											
<p>【見込まれる成果 1】 公開授業研究会や第1次研究発表会を通して、すぐに実践可能な国際理解教育の教材や指導案を、全市の教員に提供することができる。</p> <p>《検証方法》 公開授業研究会及び研究発表会の参加者にアンケートを取り、「公開授業に参加して成果が得られたか」を問う項目における肯定的答を80%以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 国際理解教育部の部員が集まって研究会や研修会を実施することも困難な状況が続いたが、研究活動をSKIPやLINE会議を活用し行い、全市公開授業を2、部内公開授業を1、実施できた。2月4日の総合研究発表会の発表は中止としたが、成果物として紀要に収めた指導案集と、すぐに実践できるショート指導案をQRコードで添付したポスターを全市小学校に配付する。(3月中旬に予定) 公開授業も人数をかなり絞ったものしたことや、総合研究発表会の発表も中止したため、有効な効果検証のためのアンケートを取ることができなかった。</p>													
<p>【見込まれる成果 2】 大阪市の学校で求められている教材や学習の手立て、子どもにつけたい力などをリサーチし、それを研究に生かすことができる。</p> <p>《検証方法》 各公開授業研究会での研究討議における参加者の意見・感想を分析し、その授業についての成果と課題を明らかにする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 各公開授業研究会、研究討議における参加者の意見・感想を立命館大学講師：山田文乃先生に分析いただいた。 「ICT機器の活用という観点では、成果と課題の両方が見られた。ハード面での整備から発生する限界もあり、ただ授業内で使用する場面を設定すればよいというのではなく、学習の流れを大切にしたうえでの目的を明確化することが必要である。コロナ禍は、社会問題をより鮮明に浮かび上がらせ、社会の分断や対立を煽る一面も見受けられる。しかし、こんな時だからこそ、遠い世界と自分の暮らしのつながりを実感し、地球規模の問題を身近に感じるチャンスであるともいえる。今まさに、国際理解教育の果たせる役割は大きく、その可能性は無限大であると信じる。引き続き、授業実践を深めていただきたい。」</p>													
<p>【見込まれる成果 3】 “Emotional”な力を育むための主体的・対話的で深い学びとは、どのような学習活動によって可能になるのかを明らかにする。</p> <p>《検証方法》 公開研究授業における児童への事前と事後のアンケート結果やアセスメントシートを比較分析し、児童の変容について考察すると共に、事後アンケートで「もっと知りたい」と回答する児童の割合を80%以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 前年度作成した、「国際理解教育アセスメントシート」や学習指導要領の評価の3観点での「学習目標一覧表」及び「ルーブリック」を活用し、授業の構築や評価に生かした。 新庄小学校各学年・学級で行った「国際理解教育アセスメントシート」の結果からは、「もっと知りたい」と回答する児童の割合を85%（全学年平均）と、目標を上回ることができた。 しかし、効果検証数が限られているため、次年度以降にも引継ぎ、研究課題とする。</p>													
6	成果・課題												

6	成果・課題	<p>【見込まれる成果4】 子どもがどのように「学びに向かう力」をつけていくのか、その過程を明らかにする。</p> <p>《検証方法》 公開研究授業における児童の考え方や行動の変容がわかる具体物をポートフォリオとして蓄積し、「知識・理解」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの視点で、アセスメントシートやループリックの活用を進めその有用性の検証も行う。</p> <p>〔検証結果と考察〕 検証数が少なく引き続き検証と考察が必要である。 現時点では、国際理解教育の取り組みの程度によって、アセスメントシートや、ループリックの内容をさらに分かりやすくする必要がありそうだ。 新庄小学校では、国際理解教育の取り組みが初めてであったため、設問数少なくしたり、質問事項を平易な言葉に置き換えたりして、アセスメントシートを活用した。そのことで、児童の授業前後の変容がつかみ易くなった。</p> <p>【見込まれる成果5】 国連によるアジェンダ2030で提案されたSDGsをはじめESDの概念、現在世界規模で教育に取り入れられようとしていることを、全市教員に知らせる。</p> <p>《検証方法》 全体研修会での参加者アンケートの「新しい学びがあったか」を問う項目での肯定的回答の割合を80パーセント以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 コロナ禍、夏の研修会や総合研究発表会を紙面開催とせざるを得ず、アンケート調査を行うことができなかった。</p> <p>【研究全体を通した成果と課題】 具体的に記載してください。 ○新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、公開授業の参加者を絞ったり、その準備も直接集まったりできず、研究部会そのものを活発に行えない困難な状態が続いた。 しかし、前年度までに作成できていた、「アセスメントシート」や、学習指導要領の評価の3観点での「学習目標一覧表」及び「ループリック」を活用し、授業実践を進めることができた。 ○研究部会を開催し集まることが難しい中、感染リスクの低いタイミングで全体会・研修会を行い、また、メールやオンライン会議等を活用して意見交換を図り、全市公開授業を2、部内公開授業1、を実施した。また、ショート指導案集を作成しポスター化することができた。 ○成果物としては、紀要に収めた指導案集と、すぐに実践できるショート指導案をQRコードで添付したポスターを全市小学校に配付（3月中旬に予定）する。また、既に実施した公開授業の成果と課題を分析を活かし研究テーマに迫り、引き続き来年度の研究活動を進めたい。</p> <p>《代表校園長の総評》 研究を進めるには、大変厳しい一年間が今年も続いた。 まずは、新型コロナウイルス感染症への対応が一番であり、そのぞれの学校の子どもたちの安全と安心を確保すること、そして、保護者の不安を少しでも解消することが優先課題であった。 そのような状況下、国際理解教育のもつ意味、実践の必要性を再確認する日々であった。世界が連帯することなしに、この局面を開拓することはできないに違いない。また、地球温暖化の問題は深刻であり、更に、このまとめを作成している際に、ウクライナへのロシアの侵攻が始まった。今後ますます国際理解教育が学校教育において果たす役割は大きくなると考える。全市小学校で、各担任が容易に取り組むことができる実践を提案していくことが責務であると考え、引き続き、研究を進めていきたい。</p>
---	-------	---